

成人看護学

【科目構成とねらい】

成人とは、心身ともに成長・成熟した人をいう。成人の区分は、身体の成熟度や社会的活動の視点によりその定義は異なるが、概ね15歳から65歳までを指し、13歳から18歳までを小児からの移行期、65歳から75歳までを老年への移行期とする。成人を限定した年齢集団にとらえるのではなく、小児から成人、成人から老年へと成長・発達をしながら連続性を持った存在としてとらえる。

成人期は、発達段階の視点から、青年期、壮年期、向老期に区分され、それぞれ異なる発達課題がある。いずれの時期においても成人期にある人は、社会における中心的役割を担い、自立・自律し、意思決定できる存在である。たとえ病気になっても、自分の治療法の選択や療養に責任をもち、セルフマネジメントできる存在であるととらえる。

成人の健康は、ライフイベントや生活習慣、労働環境、人間関係などさまざまな要因に影響を受け、健康障害がもたらされる。そのため、成人の健康は、生活の中でとらえていく必要がある。また、成人期の生活習慣は、その後の老年期の健康に影響を及ぼすため、健康寿命を延伸するためにも成人期の健康活動が重要となる。

近年、健康意識の高まりや医療の高度化、在院期間の短縮など成人の健康問題を取り巻く環境が大きく変化しつつある。たとえ健康が障害されても社会生活を中断せずに治療する、あるいは入院治療を行っても早期に退院し、外来で治療を続けるようになった。この様に疾患は、生活から切り離されたものではなく、生活者としての視点から健康問題をとらえていくことが必要である。また、多様性を認め合う社会の実現が求められ、「その人らしさ」の重要性が増してきた。病を抱えつつも生活していくうえで、こうした視点は欠かせない。

このように健康問題と生活者という2つの視点から、健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を踏まえ、成人期における看護の特徴に基づく科目を設定し、成人看護学の講義について計6単位を以下の通り設定した。

「成人看護学概論」

成人看護学概論では、成人期にある人を理解し、成人看護の特徴を学ぶ。成人看護学に関連する、保健・医療・福祉における動向と課題、成人期にある人を取り巻く環境から生じる健康障害や、健康に対する多様な価値観を認め、成人期にある人がたとえ病になっても、その人がその人らしく生きていくことを支えるための、看護の基本的役割について学習する。また、成人期にある人の看護の特徴を「生命の危機状況にある人の生きているを支える看護」「手術を受ける人の生きていくを支える看護」「病とともに暮らすを支える看護」「生活機能障害のある人の暮らすを支える看護」「その人らしく生きるを支える看護」とし、看護の基盤となる看護理論を活用した成人看護のアプローチについて学習する。

「生命の危機状況にある人の生きているを支える看護」

人の身体には、侵襲に対してホメオスタシス（恒常性）を保とうとする機能が備わり、バランスが保たれている。しかし、何らかの侵襲によってホメオスタシスの保持が困難となった場合、生命の危機状態に陥り、呼吸、循環など生命を維持するために、迅速かつ適切な医療介入が必要となる。「生命の危機状況にある人の生きているを支える看護」では、生命危機に対応するための基礎知識や、早期

回復に向けた看護、合併症予防のための看護の理解が必要になる。また、事例を用いて臨床判断のプロセスを学ぶ。

「手術を受ける人の生きていくを支える看護」

成人期にある人が、何らかの原因により手術が決定し、手術療法を受け、回復し、退院に至るまでの周手術期に行われる看護を学ぶ。手術療法を受けるとは、生活者が手術を提示された時から、手術を終えて、何らかの機能障害または低下の状態、再びその人の生活に戻るといった経過を辿ることである。手術療法は、健康回復への手立てではあるが、手術療法を受ける人は、身体・社会・精神的に大きな影響を受ける。また、その家族にとっても危機的状況となる。手術による影響を最小限におさえて、回復を促進するための支援が必要である。「手術を受ける人の生きていくを支える看護」では、周手術期にある人とその家族の特徴を理解したうえで、手術侵襲と生体反応および回復過程、アセスメント力、合併症予防と看護に関する知識と技術を学ぶ。

「病とともに暮らすを支える看護」

病を抱えつつ生活している成人期にある人は、疾病の症状や徴候と折り合いをつけながら日々生活している。看護者の役割は、患者がセルフマネジメントできるよう効果的な患者教育を担い、長期にわたる療養生活を支援することにある。そのため、単に、一般的な知識や技術を伝える指導ではなく、社会的役割を果たしながら病とともに暮らすことを「支援」する視点が不可欠である。成人期にある人が健康上の課題に対して解決できるよう、「学習援助型」の考え方を支持していくことが必要である。「病とともに暮らすを支える看護」では、成人期にある人自身が自分の病状をアセスメントして、コントロールするための支援について学習する。

「生活機能障害のある人の暮らすを支える看護」

成人期にある人が、疾病や外傷などにより身体機能の一部失われた場合、それまでの生活を見直し、生活の変更を余儀なくされることがある。その場合、身体機能の障害や治療のため通院や入院することによって、社会や家庭の中で、担ってきた中心的な役割の遂行が困難となる。「生活機能障害のある人の暮らすを支える看護」では、少しでも早く、再びその人らしく生活が送れるようリハビリテーションを支援、社会復帰できるよう支援するための看護について学習する。

「その人らしく生きるを支える看護」

成人期にある人が、生命を脅かす疾病により、身体的苦痛、精神心理的苦痛、社会的苦痛、生きることの意味を自問するなどのスピリチュアルな苦痛による全人的苦痛にさらされる。そのような状況下において、社会的役割の遂行が困難になると同時に、その人らしい生活や自分らしさをも制限されていく。「その人らしく生きるを支える看護」では、特定の疾患や終末期に関わらず、患者とその家族の抱える苦痛の予防と緩和をするとともに疾病の進行に伴う不安、孤独、恐れを癒し、その人らしい生活を維持し、クオリティオブライフを改善していくことで、死が訪れるその時までその人らしく生きることを支援するケアについて学ぶ。

【目的】

成人期にある人を生活者としての視点から理解し、健康問題を抱えた成人の主体性を尊重した意思決定ができるように関わり、健康でその人らしく生活することを医療の側面から支えるために必要な援助を提供することの基礎的能力を養う。

【目標】

1. 成人を生活者としてとらえ、「生きている」、「生きていく」、「暮らす」、「その人らしく生きる」という側面から理解する。
2. 成人の健康課題とその予防について理解する。
3. 生命が脅かされている状態にある成人の生命活動を支える看護について理解する。
4. 生命活動を維持するための治療として手術を受ける成人の、生命活動を支え、身体機能の低下からの回復を促す看護について理解する。
5. 長期にわたりゆっくりと進行する疾患を抱える成人が、病とともに暮らすを支える看護について理解する。
6. 疾患や外傷により身体機能の一部が失われた成人が、再びその人らしく社会とつながりを持って暮らしていけるよう支える看護について理解する。
7. 病に生を脅かされつつある成人の、今ある生をその人らしく生きられるように支援する看護について理解する。

【構成および計画】

科目	単位	履修時期		
		1年次	2年次	3年次
成人看護学概論	1	○		
生命の危機状況にある人の生きているを支える看護	1		○	
手術を受ける人の生きていくを支える看護	1		○	
病とともに暮らすを支える看護	1		○	
生活機能障害のある人の暮らすを支える看護	1		○	
その人らしく生きるを支える看護	1		○	

授業計画

科目名	成人看護学概論	単位数(時間)	1 単位(30)	履修時期	1 年次
科目 目標	1. 成人期にある人を生活者としての視点からとらえ、成人について理解する 2. 成人の健康と生活を支える保健・医療・福祉の現状及び課題を理解する 3. 成人を支える看護について看護理論を活用した看護アプローチを理解する				
回	単 元	内 容		形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>
第 1 回	成人期にある人の理解	成人看護学とは 成人期にある人の理解		講義	専任教員*
第 2 回		成人にとっての「その人らしさ」とは 成人の発達段階・発達課題の特徴と役割 成人を取り巻く現代社会の特徴		講義	専任教員*
第 3 回		成人の生活と健康 健康指標からみた成人の理解		講義	専任教員*
第 4 回		成人の健康の目標と健康課題 健康の保持増進のための取り組み		講義	専任教員*
第 5 回		生活と健康を守り育むシステム 保健・医療・福祉にかかわる施策		講義	専任教員*
第 6 回	看護理論を活用した 成人看護のアプローチ	成人教育とは 成人教育の概念と特徴 エンパワーエディケーション アンドラゴジー理論		講義	専任教員*
第 7 回		成人が生きているを支える看護 成人が生きていくを支える看護 危機理論		講義	専任教員*
第 8 回		成人が病とともに暮らすを支える看護 病みの軌跡 健康信念モデル 自己効力 行動変容ステージモデル		講義	専任教員*
第 9 回		成人が障害とともに暮らすを支える看護 セルフケア理論		講義	専任教員*
第 10 回		成人がその人らしく生きるを支える看護 死への軌跡 全人的苦痛 意思決定支援		講義	専任教員*
第 11 回	成人の健康を支える支 援	Case learning① 身近な成人の健康について考える		演習	専任教員*
第 12 回		Case learning② 生活のリサーチと健康課題の検討		演習	専任教員*
第 13 回		Case learning③ 健康課題に対する改善策の検討		演習	専任教員*
第 14 回		Case learning④ 生活改善に向けた改善策の提案と結果		演習	専任教員*
第 15 回	評価				
テキスト 参考図書	参考図書：国民衛生の動向（一般財団法人厚生労働統計協会） 専門分野Ⅱ 成人看護学 成人看護学総論 医学書院			評価 方法	筆記・ レポート等
備考					

授業計画

科目名	生命の危機状況にある人の生きているを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 生命が脅かされている人の「生きている」を支える看護が理解する 2. 「生きている」を支えるための臨床判断のプロセスを理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	生命の危機状況にある人の基本的看護	生命の危機状況にある患者と家族の理解 看護の特徴 有用な理論	講義	専任教員*		
第 2 回		臨床判断プロセスの特徴 生体侵襲反応と看護ケア	講義	専任教員*		
第 3 回		生きているを尊重する看護 倫理的問題 患者擁護	講義	認定看護師		
第 4 回		循環障害のある患者と家族の看護 胸痛	講義	専任教員*		
第 5 回		呼吸障害ある患者と家族と看護 呼吸困難	講義	専任教員*		
第 6 回	生きているを脅かし治療を必要とする人の看護	救命救急を必要とする人と家族の看護 救急看護が必要な人の理解 初療時の看護 意識障害・ショック	講義	認定看護師*		
第 7 回		集中治療を必要とする人と家族の看護 呼吸不全・人工呼吸器装着と看護・肺理学療法	講義	認定看護師*		
第 8 回		集中治療を必要とする人と家族の看護 心筋梗塞・心不全・P C I 治療・心臓リハビリテーション	講義	認定看護師*		
第 9 回		集中治療を必要とする人と家族の看護 外傷の状態にある人の看護 熱傷の状態にある人の看護	講義	認定看護師*		
第 10 回	臨床判断のプロセス	アセスメントに生かす推論技術 アセスメントの方法	演習	専任教員*		
第 11 回		シミュレーション学習	演習	専任教員*		
第 12 回		演習時には、各状態に関連した疾患及び観察項目などの事前学習が必要となる。シミュレーション学習は頭痛・呼吸困難・急性腹症などでシナリオ設定する。	演習	専任教員*		
第 13 回			校内 実習	専任教員*		
第 14 回			校内 実習	専任教員*		
第 15 回	評価					
テキスト 参考図書	急性期看護 クリティカルケア メヂカルフレンド社系			評価 方法	筆記・ レポート等	
備考						

授業計画

科目名	手術を受ける人の生きていくを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1 手術療法を受ける人と家族の特徴について理解する。 2 手術療法を受ける人とその家族の「生きていく」を支えるための看護を理解する。 3 周手術期にある人の「生きていく」を支えるための看護の実際を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	周手術期における看護	周手術期を生きていくを支える 手術侵襲、麻酔が身体に及ぼす影響 意思決定支援、周手術期を支える看護理論	講義	専任教員*		
第 2 回		術前の看護 全身状態のアセスメント 術前オリエンテーション	講義	専任教員*		
第 3 回		手術室の環境、麻酔中の看護 手術室看護師の役割、手術室における安全管理	講義	外部講師*		
第 4 回		術後の看護 術直後の看護 術後合併症予防と回復への看護	講義	専任教員*		
第 5 回		術後の看護 ドレーン管理、疼痛管理	講義	専任教員*		
第 6 回		開腹手術における看護（開腹・腹腔鏡下）	講義	専任教員*		
第 7 回		開胸手術における看護（胸腔鏡下） 胸腔ドレーンの管理	講義	専任教員*		
第 8 回	開腹手術を受ける人の看護	Case learning① 開腹術を受ける患者の理解	講義	専任教員*		
第 9 回		Case learning② 術前の全身状態のアセスメント	講義	専任教員*		
第 10 回		Case learning③ 開腹術を受けた患者の全体像	演習	専任教員*		
第 11 回		Case learning④ 術後のアセスメントの実際	演習	専任教員*		
第 12 回		Case learning⑤ 回復を促進するための看護	演習	専任教員*		
第 13 回		Case learning⑥ 術後患者のアセスメント 「術後患者の観察とアセスメント」	校内 実習	専任教員*		
第 14 回		Case learning⑦ 回復を促進するための看護 「早期離床の援助」				
第 15 回	評価					
テキスト 参考図書	系統看護学講座 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 臨床外科看護各論 医学書院		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	病とともに暮らすを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1.病とともに暮らす人の特徴を理解する。 2.そのひとらしく暮らすための行動変容や治療を生活に組み込むための支援を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	病とともに暮らす人の理解	病とともに暮らす人の特徴 治療・療養行動に関わる主な理論・概念 セルフマネジメント能力を高めるための支援 教育的アプローチ・チームアプローチ	講義	専任教員*		
第 2 回	肝機能障害とともに暮らすを支える看護	肝機能障害とともに暮らす人の理解 身体的・心理的・社会的特徴 代償期のセルフマネジメント支援 検査・治療を受ける人の支援 症状マネジメント	講義	外部講師*		
第 3 回		非代償期の支援 症状緩和の援助 (肝性脳症・腹水・黄疸) 薬物療法 食事療法	講義	外部講師*		
第 4 回	腎機能障害とともに暮らすを支える看護	腎不全とともに暮らす人の理解 身体的・心理的・社会的特徴 看護の特徴	講義	外部講師*		
第 5 回		病状コントロールに必要な支援 症状マネジメント 苦痛の緩和 社会的支援の獲得への看護	講義	外部講師*		
第 6 回		血液透析・腹膜透析の特徴 透析を受ける人への支援	講義	外部講師*		
第 7 回	糖代謝障害とともに暮らすを支える看護	病状コントロールに必要なマネジメント支援 ① 症状マネジメント 食事療法 運動療法	講義	外部講師*		
第 8 回		病状コントロールに必要なマネジメント支援 ② 薬物療法 自己血糖測定 フットケア	講義	外部講師*		
第 9 回		case learning 糖尿病とともに暮していく人と家族の理解①	講義 演習	専任教員*		
第 10 回		case learning 糖尿病とともに暮していく人と家族の理解②	講義 演習	専任教員*		
第 11 回		case learning 対象に必要なセルフマネジメント支援とその根拠	講義 演習	専任教員*		
第 12 回		case learning 生活者としての対象に必要なセルフマネジメント支援①	演習	専任教員*		
第 13 回		case learning 生活者としての対象に必要なセルフマネジメント支援②	演習	専任教員*		
第 14 回		case learning 生活者としての対象に必要なセルフマネジメント支援の実際	演習	専任教員*		
第 15 回	評価					
テキスト 参考図書	系統看護学講座 成人看護学 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 消化器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 腎・泌尿器 医学書院 食品交換表 日本糖尿病協会 文光堂 NANDA - I 看護診断 定義と分類 医学書院			評価 方法	筆記・ レポート等	
備考	※「糖代謝障害とともに暮らすを支える看護」で一連の看護過程の展開を行う。					

授業計画

科目名	生活機能障害のある人の暮らしを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 生活機能障害によって変化する成人のセルフケアを理解する 2. 生活機能障害とともに暮らしその人の生活の再構築のための支援を理解する					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	生活機能障害とともに暮らし成人のセルフケア	生活機能障害とともに暮らし成人のセルフケア 生活機能障害とリハビリテーション 生活機能障害とともに暮らしのための支援	講義	専任教員*		
第 2 回	循環機能障害のある人の生活の再構築のための看護	循環機能障害を有する人への看護 循環機能障害のアセスメント	講義	専任教員*		
第 3 回		循環機能障害の検査・治療の特徴と看護 心電図・不整脈・ペースメーカー 回復期における支援	講義	専任教員*		
第 4 回		case learning：循環機能障害のある人（慢性心不全）のある人の生活指導援助	演習	専任教員*		
第 5 回	乳房切除を受ける人の看護	受容へのアプローチ ボディイメージの変化・セクシュアリティ	講義	認定看護師*		
第 6 回		合併症の予防とリハビリテーション リンパ浮腫のケア 退院指導	講義	認定看護師*		
第 7 回	脳・神経障害のある人の生活の再構築のための看護	脳・神経機能障害を有する人への看護 合併症のアセスメントと予防	講義	脳卒中リハビリテーション 認定看護師*		
第 8 回		case learning：くも膜下出血にある人の発症から生活の再獲得までの援助（急性期から回復期へ）	演習			
第 9 回		case learning：くも膜下出血にある人の発症から生活の再獲得までの援助（維持期・生活期へ）	演習			
第 10 回	排尿・排泄機能障害のある人の生活の再構築のための看護	排尿・排泄機能の障害のある人の看護 排尿・排泄機能の障害のアセスメント 排尿・排泄の調節機能の回復への援助	講義	認定看護師*		
第 11 回		ストーマ造設の看護 ストーマケアの自立に向けた援助	講義			
第 12 回		ストーマ管理とケアの実際（消化管ストーマ） ・スキンケア・装具交換と管理	校内 実習			
第 13 回	脊髄に障害のある人の生活の再構築のための看護	脊髄損傷による機能障害の発生メカニズム 機能評価とアセスメント	講義	専任教員*		
第 14 回		脊髄損傷の回復過程 治療とリハビリテーション	講義			
第 15 回	評価					
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 成人看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 循環器 成人看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 成人看護学 医学書院 NiCE リハビリテーション看護 障害をもつ人の可能性とともに歩む 改訂 第 2 版 南江堂		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	その人らしく生きるを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 「その人らしさ」を捉え、その人らしく生きることを支援するための看護を理解する 2. 生と死について考えることができ、その個人と家族とともに「人が生きる意味」ついて理解する					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	緩和ケアの定義 と現状	緩和ケアとは 看護の対象 終末期医療に関する概念 看護の役割	講義	専任教員*		
第 2 回	成人期にある人 の、その人らし く生きるとは	緩和ケアを必要とする成人の特徴 思春期・若年成人 (AYA 世代) における特徴 非がん患者	講義	専任教員*		
第 3 回		全人的苦痛 霊的苦痛の緩和 コミュニケーション	講義	外部講師*		
第 4 回			演習	外部講師*		
第 5 回		緩和ケアにおける倫理的課題 倫理的課題の検討 意思決定支援	講義	専任教員*		
第 6 回		緩和ケアの実際	がん患者の治療に伴う看護 がんの病態 集学的治療・有害事象	講義	専任教員*	
第 7 回		緩和ケアチームの活動 多職種連携と看護の役割 看護の実際	講義	認定看護師*		
第 8 回		疼痛緩和 薬物療法と疼痛緩和	講義	認定看護師*		
第 9 回		case learning：肺がんのある人の苦痛の緩和の 援助 (呼吸困難)	講義	専任教員*		
第 10 回		case learning：白血病のある人の苦痛の緩和の 援助	講義	専任教員*		
第 11 回		case learning：肝臓がんのある人の苦痛の緩和 の援助(腹水・浮腫)	講義	専任教員*		
第 12 回		終末期における援助の実践とコミュニケーション	校内 実習	専任教員*		
第 13 回		ターミナル期の 看護	危篤時の看護 臨終時の看護 死亡時の看護	講義	専任教員*	
第 14 回		家族のニーズ 日本の臨終時、死亡時の慣わし グリーフワーク・ケア 自己の死生観	講義	専任教員*		
第 15 回		評価				
テキスト 参考図書	系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 生活者としての対象に必要な		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						